

子どもが長期欠席をしたとき学校はどう対応するか？～「学びの保障」のために～

校長 谷口源太郎

現在、学校では子ども一人1台のタブレット型パソコンを活用して、情報化社会・デジタル時代に主体的に対応できる子どもたちを育成するために、教育の情報化や EdTech（エドテック）の推進に力を入れて取り組んでいます。タブレット端末などの ICT 機器をより一層積極的に活用した授業実践を全教員で積み重ねています。

先日は、県 PTA 新聞（小学校版）5月号に本校のこれまでの取組の一部が掲載されました。今年度になって4月には2件（MBC テレビでの入学式 YouTube 配信、市政広報番組「かごしま元気 BOX」でのコロナ下における安心の学校生活ハイブリッド型オンライン授業）のマスコミ取材がありました。また、全国版の教育雑誌である小学館「みんなの教育技術」からの取材を3月末に受けてこの度4回連載され全国に配信されることになっています。

このように昨年度から取り組み始めた教育の情報化・EdTech の取組が、県内外はもちろんのこと全国にも示唆を与える取組として発信されています。大きな目的は、先ほど書いたように「これからの情報化社会・デジタル時代に主体的に対応できる子どもを育成するため」です。

しかし、その目的以前に3年越しのコロナ禍で学校の教育活動は様々な制限・制約を受けており、自由に教育活動ができにくい状況があります。コロナ感染や濃厚接触のために学校を長期に休まざるを得ない子どもたちがこの2年間だけでも多数出ています。それらの子どもたちのために学校としてできることは何か？それは「学びの保障」です。だれ一人も取り残すことなく「学びの保障」をすることです。家庭学習の課題として学習プリントや宿題を出して取り組んでもらう従来型の対応ももちろんあり、下学年は従来型の対応をしています。上学年はそれに加えて1人1台配備されているタブレット端末を有効に活用したハイブリッド型オンライン授業を行って対応しています。※ハイブリッド型とは、対面型の授業と学校・家庭をオンラインで繋いだ配信を同時に行うこと

オンライン授業についてはほとんどの学校がほぼ未経験であり、授業の進め方や指導方法が確立されていない未開拓の分野でもあります。そのような中であって本校ではいち早くこの分野を切り開こうとしているのです。それはとりもなおさず子どもたちに「学びの保障」をするためです。

昨年度から取り組んできた学校と家庭を繋ぐオンライン授業等をまとめましたのでご覧ください。